

水稻除草剤特集

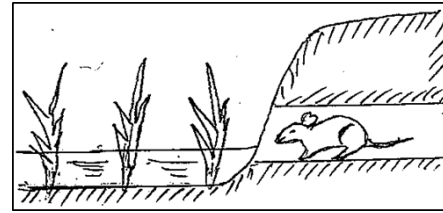
平成29年4月13日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任農業協同組合

注意事項を守って、除草剤の効果を十分に引き出しましょう。

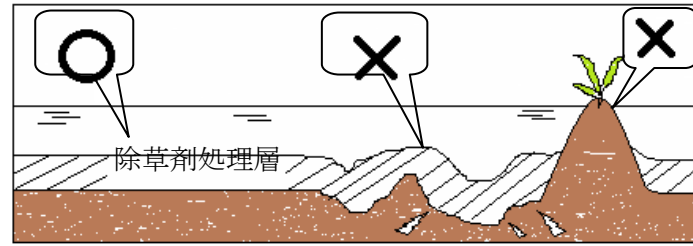
気温が高いと雑草の生育も早まるのでタイミングを逃さないようにしましょう。
雑草多発ほ場や前年と品種が異なるほ場は初期剤との体系処理で効果を高めよう。

1 除草剤散布前前の注意事項

- ねずみ穴等からの漏水がないように畦塗りや波板張り等の漏水対策を行う。
- 軟弱徒長苗は薬害を受ける恐れがあるので、健苗育成に努める。



- 代かきは丁寧に行い、部分的な深水や露出部分のないように努める。(減水の少ない圃場に！)



- 代かきと田植えの間は、5日以上あけない！雑草は代かき直後から発生します。代かきから田植えまでの期間が長いと、その間に雑草が生長します。また、田植え時の土の戻りが悪くなり、イネの根が露出しやすく薬害が発生しやすくなります。

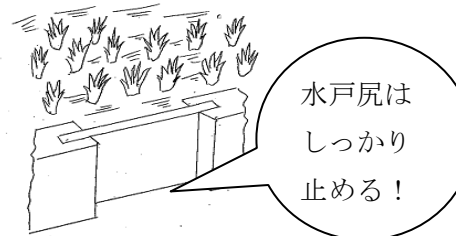
2 除草剤散布時時の注意事項

- 散布量は規定量を守り、均一に散布する。また、風の強い日は散布を避ける。
- 極端な深水や極端な浅植えでは、薬害が出やすいので注意する。
- 除草剤成分の拡散に必要な水深を確保し、止水で散布する。



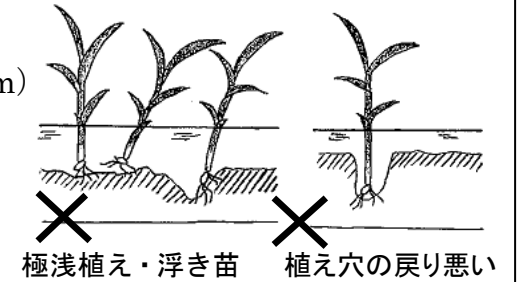
【剤型別の留意点】

- 1キロ粒剤：まきムラができないよう、均一散布に努める。
- フロアブル剤：拡散性に優れているが、水の動きにより差が出るので、水管理(止水)に留意する。散布時は、湛水深5cm程度とする。
- ジャンボ剤、豆つぶ剤：
 - 散布時の湛水深を5~6cmとやや深水とする。
 - 藻類や浮き草が多いと拡散しにくいので、多発田での使用は避ける。
- 顆粒剤：入水を利用して流し込むため水管理に注意。田面が出ないように十分入水した状態からさらに上乗せ入水と同時に流し込む。散布方法は通常処理と、15分間短時間処理があるが、使用方法をよく確認して処理する(座談会資料・営農てびきチラシ参照)。



☆田植同時処理の注意事項 (※使用できるのは「移植時」の登録がある剤のみ！)

- 丁寧な代かきと適度な植付深さで薬害の原因となる「極浅植え」や「浮き苗」を防ぐ。(植付深3cm)
- 植え穴の戻りの悪い圃場や縦浸透が激しく水持ちの悪い圃場では薬剤が根部付近まで浸透し、薬害の恐れがあるため使用を避ける。
- 田植終了後は水尻を確実に止め、速やかに所定の湛水深(5cm)まで入水し、田面が露出しないように努める。

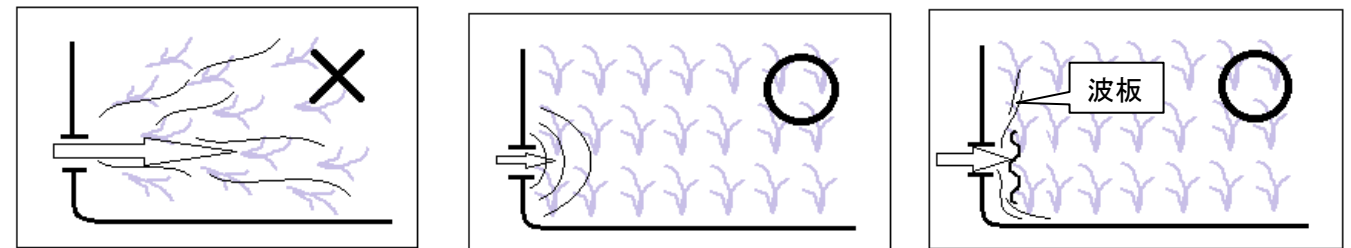


※ 除草剤の種類に応じて田植同時散布機(こまきちゃん等)の開度を調整する必要があります。

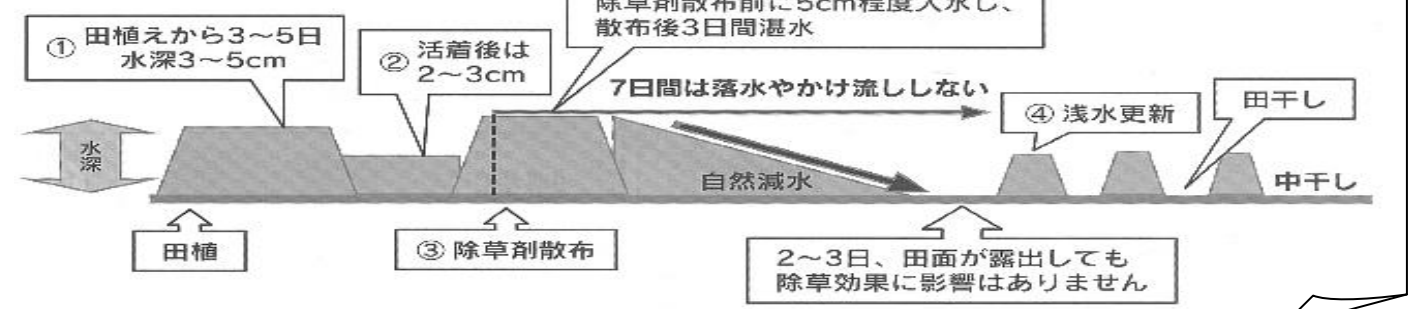
3 除草剤散布後後の水管理 (中干しまで)

- 散布後7日間は止水とし、落水・掛け流しをしない。
- 差し水は田面の高い部分が露出する前に行い、静かに行う。

処理層を壊さないように静かに差し水してください。



【(参考) 田植え後の水管理イメージ】



※ 雑草の取りこぼしが多いとき・・・

【3つのパターン】

- ① ノビエが多い
- ② 広葉雑草が多い
- ③ ノビエや広葉雑草が多い

【対処剤】

- ・ヒエクリーン1キロ粒剤、クインチャー1キロ粒剤 (湛水散布)
- ・クインチャーEW (落水散布)
- ・バサグラン粒剤、バサグラン液剤 (落水またはごく浅く湛水散布)
- ・粒状水中MCP (雑草が完全に浸かる湛水状態で散布)
- ・サンパチ1キロ粒剤、アトリ1キロ粒剤 (湛水散布)
- ・クインチャーバスME液剤、ワイドパワー粒剤 (落水またはごく浅く湛水散布)